

大阪市立東中川小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校ではこれまで、「意欲的に学習に取り組ませるための方法」、「場に応じた言葉づかいや行動がとれる子」、「健康づくり・体力づくりの推進」の中期目標の達成に向けて取り組んできた。各視点においては、取り組み内容をその年の児童の実態に合うように練り直し取り組み続けた結果、満足のいく成果が出たものも多い。

しかし昨年度末の保護者・児童アンケートの結果によると、本校の児童は未だ基本的生活習慣が身についていない児童も多く、学習に臨むまでに遅刻や持ち物忘れなどの課題が多くある。また大阪市学力経年調査の結果から、国語科における知識の活用や、文章を書くことが課題であることが分かった。また体力向上アクションプランにもあるように、持久力にも全国と大きな開きがあることが分かる。それに加え、渡日児童の増加や SNS の普及による生活の変化などの今日的課題を踏まえて取り組んでいかなければならない。

このような実態を踏まえて、全市共通目標の 2 つを軸に、学力向上、体力向上、生活指導、人権教育の視点から目標設定を行った。それぞれが具体的な取り組み内容を設定し、計りやすい指標を設定することで取り組みが推進され、児童が主体的に意欲的に取り組めるようにしたいと考えている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和 3 年度末の出欠統計において、病気・通院以外の遅刻者を平成 29 年度より 10% 減らす。
- 令和 3 年度末までのいじめアンケートにおいて、校内で認知したものについて、解決した割合を 100% にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 3 年度末までの児童アンケートにおいて、「学校以外で全く学習しない」と答える児童の割合を 10% 以下にする。
- 令和 3 年度末までの児童アンケートにおいて、「自分の健康に興味を持ち、進んで体力づくりに取り組みましたか」の項目において、肯定的な反応を 90% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和3年度の小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0%にする。
- 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合0%を維持する。

学校園の年度目標

- 基本的な生活習慣を身につけ「学校安心ルール」を徹底し、学校で決められたルールやきまりを守ることができる子どもを育てる。
- 思いやりの心を育み、いじめを許さず仲間を大切にする子どもを育てる。
- 誘い合い登校や集団下校、縦割り班活動をとおして防災、防犯の取り組みを進める。
- 多文化共生教育を推進し、国際クラブ4チームの活動を工夫する。
- 豊かな心を育むために読書活動を活発にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 令和3年度の小学校学力経年調査【校内調査】における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 令和3年度の運動能力調査において、特に課題であるシャトルランの平均記録を前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 研究活動として英語科に取り組み、英語教育において言語や文化について体験的に理解を深めるための指導法、学習方法について研究を行う。
- 学力向上推進校の選定を受け、国語科を中心に学力向上に向けた取組を行い、指導力向上をめざす。
- 家庭学習をはじめ、短時間学習の工夫、多様な授業形態を工夫し、キャリア教育をはじめ、多様な体験活動を充実させる。
- 運動場での外遊びや、体育館の有効活用、朝（始業前）や放課後の遊びやスポーツの取り組みを通して、自分の健康に関心を持ち、進んで体力づくりに励む子どもを育てる。
- G I G Aスクール構想に基づき、1人1台学習者用端末を活用した学習活動に取り組み、ICT教育の充実を図る。

3 本年度の自己評価結果の総括

本校では、主な年度目標として、「基本的な生活習慣を身につけ、学校安心ルールを徹底し、学校で決められたルールやきまりを守ることができる子どもを育てる。」「豊かな心を育むために読書活動を活発にする。」「学習したことの定着を図ることは勿論、テストに意欲的に取り組むことができる子どもを育て、結果の分析を説明することで、よくできる事をより一層伸ばし、足りないところを補い克服できるように個別支援に取り組む。」を設定した。

それぞれ事業効果を測るために設定した指標は次のとおりである。

【・年度末の出欠統計において、病気・通院以外の遅刻者を平成29年度（運営の計画初年度）に比べて10%減少できるようにする。・児童アンケートにおいて、学校のルールを守る項目で肯定的回答を85パーセントにする。】

【・児童の読書活動を支援し、低学年は100冊以上、高学年は50冊以上、5000ページ以上の読書量達成率を全体の20%以上にできることを目指す。・朝の読書タイム、家庭学習などで読書したことを読書ノートに記録して読書習慣が身につけられるようにし、児童アンケートの結果で肯定的な意見を78%以上になることを目指す。・読書感想文、読書感想画コンクールの参加率を全校で50%以上にする。】

【・単元ごとのカラーテスト（1.2年算数：国語、3～6年社会：理科）は分析ロムにより観点別評価の推移を指導に活かすためデータ作成をして保護者へ説明する。・4教科の「経年調査」は、昨年度の同じ母集団の結果より標準化得点を3ポイント以上の向上をめざす。・4教科の（低学年は3教科）の単元別テストの平均を75点以上のクラスを60パーセント以上にする。】

上記の目標達成に向けた取組を行った結果は次のとおりであった。

・出欠統計では平成29年度の遅刻者が1609、令和3年度は12月終了時点では530であり、10%減は達成される見込みである。また、児童アンケート「学校のルールを守っているか」の項目の結果は肯定的回答が前期90.8%、後期が85.6%だった。通年で85%を上回った。次年度も引き続き、保護者や児童に学年だよりや保健だより、全校集会等を通じて遅刻を減らすことができるよう啓発し、学級指導や全校朝会を通じて学校のルールを守れるよう指導していく。また、その時々の児童の実態に合った掲示物や手紙を活用していく。

・学校図書館の整備や読書活動支援により、低学年は100冊以上、高学年は50冊以上、500ページ以上の読書量達成率は全体の26.0%であり目標を6%上回ることができた。また、学校図書館補助員による読み聞かせや図書委員会児童の活動、図書館だよりの発行、読書ノートへの記録などの取り組みが、児童の読書習慣が身につくことにつながった。結果、児童アンケートでは肯定的な意見が78.0%あり、目標を達成した。一方、読書感想文・感想画コンクールの参加率は全校で50%以上には届かなかった。

・カラーテストの分析ロムを、個人懇談会で保護者に配布したり説明する際に活用したりした。それぞれのできているところ、足りないところをもとに計算問題や読み取りの問題を行うなど個別の支援に取り組んだ。経年調査前には昨年度の問題に取り組むなど、テストに向けての確認を行った。（経年調査の結果は3月予定）また、4教科（低学年は3教科）の2学期の単元別テストの平均が75点以上のクラスは100%であった。

これらを含むすべての取組について、全指標を達成することはできなかったものの、経年で比較するとアンケート結果が向上した取組もあり、成果の見られる内容もあったため、年度目標に対する達成状況をそれぞれ「B」評価とした。

(様式2)

大阪市立東中川小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>1 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・令和3年度の小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 ・令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0%にする。 ・令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合0%を維持する。 <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な生活習慣を身につけ「学校安心ルール」を徹底し、学校で決められたルールやきまりを守ることができる子どもを育てる。 ② 思いやりの心を育み、いじめを許さず仲間を大切にする子どもを育てる。 ③ 誘い合い登校や集団下校、縦割り班活動をとおして防災、防犯の取り組みを進める。 ④ 多文化共生教育を推進し、国際クラブ4チームの活動を工夫する。 ⑤ 豊かな心を育むために読書活動を活発にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけ「学校安心ルール」を徹底し、学校で決められたルールやきまりを守ることができる子どもを育てる。 (キャリア教育の充実) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の出欠統計において、病気・通院以外の遅刻者を平成29年度（運営の計画初年度）に比べて10%減少できるようにする。 ・児童アンケートにおいて、「学校のルールは守れている」の項目で肯定的回答を85パーセントにする。 	B
<p>取組内容②【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて考える日」をきっかけに相手の立場でものを考えたり、お互いに理解しあったりするための学習を展開する。 (いじめ・暴力行為等防止対策) 	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに行ういじめアンケートにおいて、校内で認知したものについて、解決した割合を 100%にする。 ・いじめ防止に関する取り組みを、各学期に 1 回以上実践する。 	A
<p>取組内容③ 【施策 2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の誘い合い登校や地区別集団下校、縦割り班活動をとおして学級・学年以外の関係づくりと、防災、防犯の取り組みを進める。 (不登校・児童虐待等防止対策) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・地区別集団下校を年 6 回以上行い、児童・家庭・地域に対して防犯防災意識の啓発のために、防犯防災を取り扱った教材を用いた参観を行う。 ・児童を主体とするたてわり班活動による児童集会や行事などを年間 20 回以上行う。 	B
<p>取組内容④ 【施策 4 國際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外の国際クラブ 4 チームの活動内容を工夫し、参加者を通して共生社会をめざす資質や能力を持った子どもを育み、英語や多文化への関心、関わりを持つことができるようとする。 ・多文化共生教育に関わる学習プログラムを年間 1 単元作成し実践する。 <p style="text-align: right;">(多文化共生教育の推進)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際クラブの内容の充実を図るため、教材教具の充実を図ったり、ゲストティーチャーを招いて活動をしたりする。 ・生活や総合的な学習の時間で、多文化共生に関わる学習プログラムを年間 1 単元以上実践する。 	
<p>取組内容⑤ 【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心を育むために読書活動を活発にする。 <p style="text-align: right;">(学校図書館、地域図書館の充実)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の読書活動を支援し、低学年は 100 冊以上、高学年は 50 冊以上、5000 ページ以上の読書量達成率を全体の 20% 以上にできることを目指す。 ・朝の読書タイム、家庭学習などで読書したことを読書ノートに記録して読書習慣が身につけられるようにし、児童アンケートの結果で肯定的な意見を 78% 以上になることを目指す。 ・読書感想文、読書感想画コンクールの参加率を全校で 50% 以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠統計では平成 29 年度の遅刻者が 1609、令和 3 年度は 12 月終了時点で 530 であり、10% 減は達成される見込みである。 ・児童アンケート「学校のルールを守れているか」の項目の結果は肯定的回答が前期 90.8%、後期が 85.6% だった。通年で 85% を上回った。 	

取組内容②

- ・2学期末に実施したアンケートによるいじめの認知件数は40件である。認知したいじめの聞き取りを各担任で行い、100%解決している。
- ・12月の人権週間では、学校全体で「友だちのいいところみつけ」の活動に取り組み、互いの良さを認め合える実践を行った。
- ・いじめ防止の取り組みとして、道徳の時間に学習するだけでなく、学年に応じて、絵本やNHK for schoolを活用し、携帯電話の使い方、友だちの大切さなどについて指導した。

取組内容③

- ・1月中旬において避難訓練5回、地区児童会2回行った。指標の6回を達成できた。また、防犯防災意識の啓発のために防犯防災を取り扱った教材を用いた参観を行うことができた。
- ・前期は縦割り班活動による児童集会はコロナ禍のために実施できない日もあったが、児童が主体とする行事は各学年で工夫して行うことができた。後期は児童集会も順調に実施され、指標の年間20回以上を達成することができた。

取組内容④

- ・国際クラブの英語チームではC-NETの先生、ポンソナチームでは国際クラブ指導員と一緒に活動した。ポンソナ・伝統文化・ワールド・英語チームの各担当で教材・教具の充実を図り、内容を工夫した。
- ・多文化ふれあい週間を実施し、アンデス地方について展示を行ったり、韓国・朝鮮のゲストティーチャーを迎えての活動を全学年行ったりした。また、道徳や社会、音楽の学習と連携し、いろいろな文化に触れられるようにした。その結果、どの学年でも児童は年間2か国以上の文化に触れられることができた。この活動を通して、互いの国を大切に思ったり、興味関心を高めたりすることができた。

取組内容⑤

- ・学校図書館の整備や読書活動支援により、低学年は100冊以上、高学年は50冊以上、5000ページ以上の読書量達成率は全体の26.0%であり目標を6%上回ることができた。
- ・学校図書館補助員による読み聞かせや図書委員会児童の活動、図書館だよりの発行、読書ノートへの記録などの取り組みが、児童の読書習慣が身につくことにつながった。結果、児童アンケートでは肯定的な意見が78.0%あり、目標を達成した。
- ・読書感想文・感想画コンクールの参加率は全校で50%以上には届かなかった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・次年度も引き続き、保護者や児童に学年だよりや保健だより、全校集会等を通じて遅刻を減らすことができるよう啓発していく。
- ・次年度も粘り強く学級指導や全校朝会を通じて学校のルールを守れるよう指導していく。また、その時々の児童の実態に合った掲示物や手紙を活用していく。

取組内容②

- ・来年度も人権教育の年間計画をもとに、いじめを許さない人権感覚を養う取り組みを引き続きしていく。
- ・今後も、認知したいじめは、聞き取りを行い、解決に向けて教職員全体で指導にあたる。

取組内容③

- ・次年度も指標達成に向けて取り組み、児童や家庭、地域に対して防犯防災意識を啓発していく。
- ・次年度もたてわり班活動を中心に指標達成に向けて取り組み、様々な行事を通して児童の主体性を育てていく。

取組内容④

- ・来年度も、国際クラブの活動内容の充実を図る。
- ・多文化共生プログラムの実践を次年度に引継ぎ、来年度も計画的に実践を行う。

取組内容⑤

- ・学校図書館の環境整備、公共図書館との連携や読み聞かせ、児童の図書員会活動など、次年度も引き続き充実させていく。
- ・読書ノートへの記録、読書感想文・感想画コンクールについては、授業などで取り組む機会が持てるよう教科との関連について考える。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
全市共通目標(小・中学校)	
<p>2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 ・令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 ・令和3年度の小学校学力経年調査【校内調査】における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ・令和3年度の運動能力調査において、特に課題であるシャトルランの平均記録を前年度より向上させる。 	B
学校の年度目標	
<p>⑥ 研究活動として英語科に取り組み、英語教育において言語や文化について体験的に理解を深めるための指導法、学習方法について研究を行う。</p> <p>⑦ 学力向上推進校の選定を受け、国語科を中心に学力向上に向けた取組を行い、指導力向上をめざす。</p> <p>⑧ 家庭学習をはじめ、短時間学習の工夫、多様な授業形態を工夫し、キャリア教育をはじめ、多様な体験活動を充実させる。</p> <p>⑨ 運動場での外遊びや、体育館の有効活用、朝（始業前）や放課後の遊びやスポーツの取り組みを通して、自分の健康に関心を持ち、進んで体力づくりに励む子どもを育てる。</p> <p>⑩ G I G Aスクール構想に基づき、1人1台学習者用端末を活用した学習活動に取り組み、I C T教育の充実を図る。</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑥ 【施策4 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動として英語科に取り組み、英語教育において言語や文化について体験的に理解を深めるための指導法、学習方法について研究を行う。 <p style="text-align: right;">(英語イノベーション)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って主体的にコミュニケーションを図ることのできる児童を育成するため、年間3回の授業研究を実施し、指導法を構築する。 ・クラスルームイングリッシュやゲーム、歌、チャンツ、スマートトークなどの実技 	B

<p>研修を3回以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「英語の学習は楽しいですか」、「英語を使って友達とコミュニケーションをとることができましたか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を全学年80%以上にする。 	
<p>取組内容⑦ 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことの定着を図ることは勿論、テストに意欲的に取り組むことができる子どもを育て、結果の分析を説明することで、よくできる事をより一層伸ばし、足りないところを補い克服できるように個別支援に取り組む。 	<p>(全市共通テストの導入)</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元ごとのカラーテスト（1.2年算数：国語、3～6年社会：理科）は分析ロムにより観点別評価の推移を指導に活かすためデータ作成をして保護者へ説明する。 4教科の「経年調査」は、昨年度の同じ母集団の結果より標準化得点を3ポイント以上の向上をめざす。 4教科の（低学年は3教科）の単元別テストの平均を75点以上のクラスを60パーセント以上にする。 	<p>A</p>
<p>取組内容⑧ 【施策5 子ども一人ひとり状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習をはじめ、短時間学習の工夫、多様な授業形態を工夫し、キャリア教育をはじめ体験活動を充実させる。 8時30分の始業時刻を含め、1日の学校生活におけるチャイムの合図（時刻・時間）を守り学習規律が身に着くようにする。 	<p>（学力の向上）</p>
<p>B</p>	<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の啓発、キャリアパスポートの活用、児童アンケートの結果などの分析を行う。 短時間学習（週60分：朝学習10分×3回、昼学習15分×2回）を実施し、60分×（学校課業日週）の9割以上実施する。
<p>取組内容⑨ 【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動場での外遊びや、体育館の有効活用、朝（始業前）や放課後の遊びやスポーツの取り組みを通して、自分の健康に关心を持ち、進んで体力づくりに励む子どもを育てる。 	<p>（体力・運動能力向上のためのカリキュラムの作成と実践）</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康について意識を高めることができるように、元気もりもり週間を年に3回実施する。振り返りシートにおいて、「石けんで手洗いができたか」の項目においてできたと答える児童の割合を90%以上にする。 児童の体力向上を目指し、実践交流や実技指導などの校内研修を年3回以上実施する。 休み時間の外遊びを推進するため、運動委員会の児童が低学年児童に実技を教える活動を、学期に1回は実施する。 	<p>A</p>

<p>取組内容⑩ 【施策4 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1台学習者用端末を活用した学習活動について、研修等を通して理解を深め、教員の資質向上を図り、「学びの保障」に向けたオンライン学習を実施できるように準備を進める。 <p style="text-align: right;">(ICTを活用した教育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTに関わる教員研修会を年間3回実施して、プログラミング学習やオンライン学習を担任1人1人が実施できるように準備をする。 プログラミング的思考を育成するためのICT機器を用いた学習活動を各学級担任が年間1回は実施する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語科、英語活動の授業研究は計画通り実施し、研究主題に沿って討議会を進め、研究を深めることができた。 クラスルームイングリッシュ・ゲームなどの実技研修、スマートトークや評価の研修を3回行い、授業力向上に役立てることができた。 2学期に実施した児童アンケートの「英語の学習は楽しいですか」の項目において肯定的に答えた児童の割合は全校的に88%であった。また、「英語を使って友達とコミュニケーションをとることができましたか」の項目においては、77%であった。学年によって偏りが見られた。 	
<p>取組内容⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> カラーテストの分析ロムを、個人懇談会で保護者に配布したり説明する際に活用したりした。それでのできているところ、足りないところをもとに計算問題や読み取りの問題を行うなど個別の支援に取り組んだ。 経年調査前には昨年度の問題に取り組むなど、テストに向けての確認を行った。(経年調査の結果は3月予定) 4教科(低学年は3教科)の2学期の単元別テストの平均が75点以上のクラスは100%であった。 	
<p>取り組み内容⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期ごとにキャリアパスポートの振り返りを活用し、自分の学校生活を確認することができた。家庭学習を確実に行ってくるよう、指導者が日々声掛け、指導を行ってきたが、児童アンケートの結果では「放課後や家で勉強していますか」の項目で、「毎日している」「だいたいしている」と答えた児童が81%から78%となり、6%下がった。また、「授業中、ルールを守って学習できていますか」の項目で、「とてもできた」「だいたいできた」と答えた児童が89%から90%となり、1%上がったが、10%の児童が学習規律をしっかりと守っていない状況はほとんど変わらないといえる。 短時間学習を計画通りに実施することができた。 	

取り組み内容⑨

- ・元気もりもり週間の振り返りシートにおいて、「石けんで手洗いができたか」の項目においてできたと答える児童の割合が、1学期よりも2学期は0.5%上昇したが、86.4%であり3.6%到達していない。
- ・実践交流や実技などについて、掲示板や回覧を活用し健康や安心安全な生活について毎月1回以上、啓発した。
- ・2学期には休み時間などに運動委員会の児童が低学年児童に鬼ごっこやドッジボール、なわとびなど実技を教えることが計画以上にできた。

取り組み内容⑩

- ・ICTに関わる研修として、「タブレットドリルの使い方」「新スカイメニュークラウドについて」「スクラッチを使ったゲーム作り」を行ってきた。それ以外にも、チームスやスクールライフノートに新たな機能などが搭載された際には、その都度研修を行って教職員に周知することで、教職員1人1人がICTを活用した学習活動を実施できるようになった。また、プログラミング的思考を育成するためのICT機器を用いた学習活動は予定通りに行ってきました。5,6年生に関しては教科の中で取り組むため、カリキュラムに従って2月ごろに実施予定である。

次年度への改善点

取り組み内容⑥

- ・継続して、主体的、対話的、深い学びを推進し、指導法の工夫に取り組む。

取り組み内容⑦

- ・今後も習熟度別学習やT.Tなど指導形態を工夫したり、個別の課題に合わせた支援を行うなど児童一人ひとりの課題に対応できるように指導を行っていく。

取り組み内容⑧

- ・家庭学習をしてこない児童や学習に集中して取り組むことが難しい児童に対して個別に指導したり、適切な支援の仕方を工夫したりしていく必要がある。家庭への啓発を引き続き行っていく。

取り組み内容⑨

- ・元気もりもり週間では、健康委員会が児童朝会での呼びかけなどを通して、健康や生活習慣について全員が考える機会を増やすことができた。毎月の掲示板や回覧を活用した啓発など、次年度も計画的に実施する。
- ・1学期は緊急事態宣言期間のため、異学年交流の実施が困難であったが、2学期には休み時間などに運動委員会の児童が意欲的に実技を教える姿が見られた。引き続き高学年の児童が活躍できる場を設定していく。

取り組み内容⑩

- ・2月ごろから予定されている情報ネットワークの切り替え（2次展開）が進む中で、新たな機能の追加や仕様の変更、双方向のオンライン授業などが進んでいくと考えられる。教職員がそれらをきちんと理解できるように、今後も研修を充実させていく必要がある。